

第80回火山噴火予知連絡会・幹事会議事録

日 時：平成11年2月2日（火）12時～12時50分

場 所：観測部会議室

出席者：井田，岡田（弘），浜口，藤井（敏），渡辺，藤井（直），石原，岡山

オブザーバー：田中（国土庁）

事務局：三上，安藤，佐久間

1. 定例会のオブザーバー参加者を紹介

岩手県から岩手大学の齊藤先生と消防防災課の職員，気象庁から野口盛岡地方気象台長と西出仙台管区気象台地震情報官。

2. 定例会の議事進行打ち合わせ

- ・岩手山に続いて，北海道の火山をまとめて議論する。
- ・「平成11年度火山噴火予知計画予算案について」を本会議資料として提出する。

3. 岩手山の観測体制について

各機関が岩手山に設置した観測施設の運用状況について情報の交換を行った。

4. 岩手山の火山活動に関する統一見解について

前年10月の見解とは異なる情報を含むことから，統一見解を発表することとし，案を基に，字句，言い回し等について検討を行った。

5. 長期予測ワーキンググループの報告

- ・活火山サブグループは，ランク付けについて，その内容をかなり固めた。活火山の定義を1万年に拡大すると同時に，防災の見地から見た重要度を火山の活動度のランクとして分類したい。
- ・長期予測サブグループは，今回で閉じるが，活火山・火山情報サブグループで残された課題も含めて次期ワーキンググループの課題，名称等について，原案を会長，各サブグループのリーダー事務局で検討して，幹事会に提案することとする。
- ・火山の活動度のレベル化の試行の実施にあたり，消防庁，各地方自治体等に，事前説明を行うべきとの意見が出された。これに対し，各地方自治体へは，レベル化の議論の段階で非公式に説明と意見聴取が行われたことが説明された。